

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0372600288		
法人名	社会福祉法人 稲泉会		
事業所名	グループホーム けーせん		
所在地	岩手県西磐井郡平泉町平泉字片岡72-3 (電話) 0191-46-5516		
評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団 評価公表課		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成19年9月26日	評価確定日	2007/11/

【情報提供票より】(19年 8月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 3 月 16 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤	人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造垂鉛メッキ銅版葺平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり		850 円

(4) 利用者の概要(8月26日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 82.2 歳	最低 75 歳	最高 88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤胃腸科内科、秋保クリニック、一関病院、平泉歯科診療所
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平泉地区の南西部に位置し、社会福祉法人「稲泉会」の5つの施設の1つで周囲を、住宅に囲まれた山間の静かなところである。風景も素晴らしく、夏、東稲山の「大文字」が正面に見える。岩盤浴があり、利用者はもとより、近所の住民も、気軽に立ち寄り、利用し交流がはかられている。職員も明るく、和やかに接しておりとても暖かなホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回は、すべて出来ているの評価であった。外部評価の内容が、変わったので、全職員に、自己評価を実施して、現在評価の内容を集計して、今後の介護に生かしたいと考えている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員で行った自己評価の内容について月1回チームケア会議(9:30~10:30)で検討している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在のところ推進会議は、3ヶ月に1回の割りで行われている。ホームの現状を報告し、それぞれの委員より、意見をいただいている。回数は少ないが中身を重視している。今後は色々な分野の方に、委員になっていただきたいと考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	四点杖につまずいて骨折し入院した利用者があったが、ホームの適切な対応と誠意ある介護で、家族から感謝をされており全く問題にならなかった。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、地区の行事やホームの行事に相互に交流がはかられている。比較的家族の訪問も多く、ホームの対応のよさの現われだと感じた。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	H19、4月職員全員で地域密着型ホームのあり方にふさわしい、理念をつくりあげた。「住み慣れた暮らし、ほっと安らげるけーせん」簡潔で覚えやすい。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自分たちで作上げた理念に自信を持っており、廊下、トイレに貼ってあり、常に確認し、日々の介護に活かす取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の人達との交流は盛んに行い、施設の特長である岩盤浴に近所の人達がよく訪れ、お茶会をしたり楽しんでいる。行事実施表にて確認した。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に向けて、全員で自己評価を行い、サービスの向上に努めている。集計は終わっていないが、改善に向けての検討や、実践に向けた努力をしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は3ヶ月に1度開催になっている。職員が交代で参加をし、会議の内容の把握に努めている。6/5、9/4の会議録で確認した。報告だけでなく、これからの計画についての協力もお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	保健センターとの事務連絡や、振興局との連絡は密に行っている。利用者が作った七夕飾りを役場に持って行き、玄関に飾って、喜ばれた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者は1万円以内の小遣いを持ち、月1回利用料請求時に郵送で家族に出納報告をしている。訪問する家族には様子を見てもらい、来訪出来ないときは電話で様子を知らせている。年4回グループホームの情報誌「きずな」の発送をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	骨折した利用者に対して、職員の対応がよく、通院に関しても家族より感謝の言葉があった。また介護度3から1に改善し自宅に戻った人もいる。事故報告書で確認した。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来、数人の異動があった。1ヶ月かけて利用者の気持ちに配慮し、家族の理解を得るようにしている。最後の日には、花束を渡したり、円満に移行する努力がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県・県南ブロックの研修は交代で参加をしている。正職員も臨時職員も研修は同じ扱いで希望に添った研修が出来る。内容は全職員が回覧等をし共有している。研修会参加記録で確認した。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県南ブロック内の他グループホームとの見学や研修会、職員の交換交流をしている。他のホームで得た意見や経験をケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の視点に立った支援をするため、利用申し込み時には、本人、家族と何度も話し合いをもち理解をもらっている。現在5～6人の待機者があるが、緊急度の高い人から入所してもらっている。待機者には、丁寧に説明をし理解を得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	退院から、直接ホームへ入居した人の帰宅願望は強く、気持ちの安定している時に、時間をかけて納得してもらっている。暴言を吐く利用者に対しては、他の利用者が対応してくれ、助けられている。日常生活の中で、スタッフが利用者から教えてもらうことが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族も本人の思いを第一に考えているので、家族からの希望はあまりないが、出来るだけ薬を減らすように、家族と連携を取っている。変更になった時は、特に注意をして様子を見る。年1回アンケートを実施し意見を受け入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース検討会を行い、年2回ケアプランの見直しを行って、結果を家族に報告している。生活歴を尊重した介護に心がけている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日誌やケース記録で利用者の状態変化や状況、家族・本人の要望に応じて見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、通院や薬受け取り等必要な支援は、柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。本人家族の状況・要望により通院、ふる里訪問、外出支援、地域交流実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9名の利用者は別々のかかりつけ医であり、4名は家族に代わり通院介助をしている。時間のかかる通院には、職員を調整して対応している。緊急時には協力医療機関を利用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介護度が高くなれば、併設の特養へ転居する方向が強く、グループ全体の職員会議(月1回)でもターミナルについては、話に広がりは見えない。重度化に向けた取り組みに課題がある。	○	利用者、家族がターミナルを希望した時のためにも、対応出来る体制を今後も、模索しながら検討してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関する文書の掲示あり。利用者、家族からは、開示に関して同意書を取っている。職員同士の気づきで、注意しあったり、指導を受けたりして、意識の向上を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特別に決まった過ごし方は作らず、本人が望む過ごし方を支援している。掃除機をかけたり、花への水やり、雪かき、買い物(週3回)等、それぞれで自分の日課にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく作り、楽しく食べる、調理から片付けまで一連の流れを、職員と共に、行っている。得意な部分をそれぞれが自然に関わっている。食事中も会話と笑い声が絶えない。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	平均週3回、午後を入浴介助にしている。殆どが、半介助と見守りで利用者同士の入浴もある。入浴が出来ないときは、清拭等に対応している。可否判断基準あり。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意なこと、出来ることをお願いし、台所仕事、畑仕事等を教えてもらいながら行っている。公民館で行われているサロンの会(10:00~12:00)に参加し、お茶、お菓子を、楽しみ、写経をする人もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気持ちや希望に応じて、お盆、正月、孫の結婚式等家族との外出にも積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、センサーを利用し、外出行動に対応しているが、現在はエスケープがないので、自由な暮らしを楽しんでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	グループ全体で年2回の避難訓練をおこなっている。	○	グループホーム単独では避難訓練を行っていないので、運営推進会議を活用し、広く地域に呼びかけて実施してほしい。非常用の物品も準備する方向で検討を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の栄養士の指導とコメントがあり、水分や、食事量のチェック表もある。好みの物で献立の変更は自由に対応している。介護計画書にて確認。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の名前は、利用者の希望で、フキ・ごみ・わらびなど山菜の名前がついており、ゆったりと広く明るい。ホールも自由に使える工夫がなされている。時計、暦も見やすい所に掲げてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	いずれは自宅に帰るという思いがあってもか、私物の持込は少な目であるが、思い出の絵、写真、書、に囲まれている。家に戻って花を切ってきたりして、楽しんでいる。		